演題名：関節リウマチを有する脳梗塞患者に対し○○療法を行い、右上肢での食事摂取を獲得した症例

〇〇（演者）1、〇〇（共同演者）1、〇〇（共同演者）2、〇〇（共同演者）3、〇〇（共同演者）1

1)〇〇病院　リハビリテーション部

2)〇〇病院　○○部

3)〇〇病院　○○部

【はじめに】

既往に関節リウマチのある脳梗塞を発症した症例に対し、◯○◯(以下○◯療法)を行い麻痺側である右上肢での箸の自助具での食事摂取の獲得に至ったため報告する。

【症例紹介】

80歳代の女性、X年Y月に脳梗塞を発症し、急性期病院での治療を経て、X年Y月+30日に当院回復期病棟に入院された**。**X年Y月+35日に行った初期評価では、Brunnstrom Stage(以下BRS)はⅣ-Ⅴ-Ⅱ、Fugl-Meyer Assessment(以下FMA)は◯◯点であり、Steinbrockerのstage分類はstageⅡの中等期で炎症期ではなかった。日常生活活動(Activities of Daily Living：以下ADL)は軽介助であり、食事は非麻痺側上肢で自立していた。認知機能は問題が無かった。夫と二人暮らしで、発症前の手段的ADLは自立していた。

【倫理的配慮】

個人情報に留意し、個人を特定できない形とした。本学会での発表に際し、対象者とご家族に説明・同意を得た。

【介入経過】

麻痺側である右上肢での食事摂取を強く希望されたため、右上肢に対して◯○療法を試みた。獲得に向けて難易度調整を行いつつ食事動作に類似した◯◯動作の練習を行った。その後、箸の自助具での食事摂取の練習を行った。X年Y月+95日の最終評価ではBRSはⅤ-Ⅵ-Ⅳ、FMAは◯◯点と改善し、結果として右上肢での食事摂取の獲得に至った。

【考察】

麻痺側の機能を補うための適切な自助具を選択したことで、関節リウマチを有していても食事摂取の獲得につながったと考える。

（659字/700字）